

福祉厚生常任委員会視察報告

夢のみずうみ村 山口サービスセンター（山口県山口市）

リハビリを在宅生活継続・人生現役を全うしたい要介護者にユニークな発想での事例を、本町の障がい者福祉・高齢者福祉対策に役立てるため、現地視察を行いました。

従来の福祉施設は、転倒防止などバリアフリー化が常識ですが、「夢のみずうみ村」では身体機能回復のため、段差や傾斜のある通路、階段などの障壁や障害物を意図的に配置し「バリアアリー」施設にしていました。要介護者（通所利用者）がバリア克服を習得し、施設外での生活範囲を広げることを目的にしていました。

通所者は、気分次第で自発的にメニューを選び自然にリハビリになるよう自己選択と自己決定を重視していました。昼食は各自持参の食器でバイキング形式で自分の力で食事をしたり、手すりは排除し、日常生活にある壁・家具等に寄り掛かり自宅での生活の環境にあわせてありました。

身体機能・生活力回復では、危険回避の注意力を養う脳の活性化が可能であることを知りました。自分の意思で「人間らしく生きる」理念がありました。本町でも新たな視点の工夫が必要と感じました。



バリア克服と習得のための「バリアアリー」施設の一部

認知症予防の取り組み（大分県宇佐市）

軽度認知障害は、早期の予防活動により高率で回復し、正常な状態を維持できるとの先進事例を学び、本町の認知症対策に役立てるため、現地視察を行いました。

宇佐市での認知症予防の取り組みは、^{あじむ}安心院地域で10年前に福岡大学との連携事業で、認知症予防啓発と機能検査が始まり。軽度認知障害判定者が自主的に予防活動に参加して1～2年で記憶力・言語能力・注意力がアップし表情も生き生きし、運動能力も向上したそうです。

参加者同士で刺激しあいながら楽しむことで活動が長続きし、認知症予防につながり現在市内11カ所、170人が参加していました。小学校区に30教室を目標に地域包括支援センターと参加を呼びかけていました。

誰もが住み慣れた地域で、いつもまでも元気で生活できるよう奥出雲町の新しい福祉施策の可能性について提案していきたいと思います。



宇佐市での認知症予防の取り組みを学ぶ